

i D i ニュースレター

歯科医療情報推進機構理事長 鴨井久一

会員の皆様、如何にお過ごしですか。一昨年の暮れから昨年中、今年も新年から「コロナ禍」に振り回され、3蜜を避け、不要不急の外出自粛、マスク着用などがルーチンに行われ、在宅で仕事する時間が多くなり、生活パターンも変革を余儀なくされています。自己増殖のできないウイルスのしたたかさに振り回され、日本国民だけでなく、世界万民が感染の恐怖を感じた年でもありました。感染者は日本全国で42万3千人、死者は7300名余り(2月18日現在)という数字は、各人の考え方や受け取り方で異なりますが、一般的に感染率の高い疫病と考えられます。

現在、予防にワクチン接種が国民全体に施行するよう段階的に急を要する医療関係者から始まったところですが、原因を考えて見る必要があります。原因は地球規模の生態系の人為的破壊が大きな原因と言われています。森林の破壊、動物と人との棲み分けが近接し、動物の持っているウイルスがヒトに伝播しやすくなるのが容易となり、また河川沿岸の補強不備で、自然破壊の進行、生活圏が農村から都会へ移動、家族形態の変動、二酸化炭素の過剰な発生による空気汚染や温度の上昇、農業形態は個人から集約農業への転換、畜産も個人から工業生産に代わり、安価で大量生産を意図した狭い閉鎖空間で、牛、豚、鶏などを抗生物質含有の飼料で短期間に飼育成長させ、市場に安価な価格で食用に供されています。当然食生活も変わり、味の濃いジャンクフードが世界各国に広がり、咀嚼力が弱くなり、流し込むことで満腹中枢を満たさず結果、肥満に伴う生活習慣病、(虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病、歯周病など)が蔓延している状態です。

さて歯科医療情報推進機構(Institute of Dental Information, iDi)は2005年、3月に安心・安全の歯科治療を目指し、理事長・藤本孝雄元厚相の下に第三者評価機関として発足しました。爾来、治療内容、患者対応、感染対策などを中心に活動を行ってきました。例えば、「インプラントの光と影」、NHK ニュースウォッチ9で当学会のインプラントの審査や報告事項が取り上げられています。学会、講演会は毎年9月に開催し、多くの方々のご参加をいただきました。残念ながら、昨年はコロナの影響により中止を致しました。元来、歯科医師は誇りと自負心を持ち、他人からとやかく言われたくない、自分なりの医療人としての誇りをもって診療にあたっているのに、僭越ではないかという話が、当時の歯科医師会を始め関連組織からの声がありました。組織とはいろんな批判や要望を取り纏め、切磋琢磨し、改善し、発展していく所に医療人としての誇りと義務があり、その結果として、改革、発展があると思います。

i D i は、第三者評価機関として有識者による適正な評価を行っており、歯科医師が受診者により理解しやすい説明義務を補足しています。

是非、この機会にi D iのパンフレットをお目通し頂き、COVID-19の対応も含めて、多くの方々に入会して頂くよう、会員皆様をお願いして、これからの御活躍を期待するものです。